

多摩区地域デザイン会議 結果概要（令和４年度）

1 開催日時等

日 時：令和４年８月２８日（日）１３時半～１６時半

場 所：多摩区総合庁舎１１階レストラン、会議室

参加者：３３名 地域活動団体関係者、多摩区ソーシャルデザインセンター関係者、公募区民、行政関係部署職員等

傍 聴：６人

2 テーマ

「多摩区におけるソーシャルデザインセンターの今後のあり方を考える」

多摩区におけるソーシャルデザインセンターは、川崎市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」における区域レベルの取組として、地域で活動する団体の支援等を行うため、令和２年３月、区民主体の運営組織によって多摩区総合庁舎１階に開設されました。

開設に当たり、市と運営組織が締結した協定の期間が、令和４年度末をもって終了することから、これまでのソーシャルデザインセンターに係る取組を振り返りながら、今後の望ましいあり方について意見交換を行いました。

3 内容（議事）

（１）開会

（２）地域デザイン会議の概要、本日のテーマ、進め方について

（３）中間とりまとめの内容説明

- ・多摩区におけるソーシャルデザインセンターに係るこれまでの取組の説明

（４）グループでの意見交換

- ・５グループに分かれて意見交換等を実施
- ・各グループ参加者４～５名＋進行役２名（市・区職員、受託事業者）

4 各グループで出された意見のまとめ

２～１７ページのとおり

グループ 1 記録

①参加者から見た多摩 SDC の良いと思う点、課題と思う点

良いと思う点

若い世代の参加

- ◇若い世代の参加、運営が実施されている。
- ◇多摩区内の大学に通う学生などが積極的に参加している点。
- ◇学生が多く参加できていること。

形になっている

- ◇何かを始めたいと思っていた人にとって、それを実行するための場所や人を探す手段になっている。
- ◇市内で初めて SDC を創出し、取り組んだこと。
- ◇区と区民が協力し合って、形にしていること。

イベントが活発

- ◇マルシェ等の活動は成功例。
- ◇様々なイベントを通して、街の活動に貢献している。

オープンマインド

- ◇オープンマインド、トライ＆エラーで様々な取組を行っていること。

課題と思う点

多世代や外国人への広がりがいまひとつ

- ◇多世代の参画が不足している。
- ◇区内に住む外国人への支援が必要。週末の活動など。
- ◇高齢者や生活に困っている区民へのサポートが必要。

情報発信の工夫必要

- ◇情報発信を対象に応じて幅広い手法で展開していく必要がある。紙（高齢者）、SNS など。
- ◇認知度が低い。

オンラインの活用

- ◇対面だけでなく、オンライン上での開催もできないか。

既存団体との連携や役割分担

- ◇既存団体との一層の連携強化が必要。
- ◇町会への協力の取組がもう一つである。

◇SDC と地域包括支援センターとの関係構築が必要。

企業との連携

◇企業との連携強化が必要。

お金の確保。ボランティアだけでは…

◇財政面で自主財源の確保が課題。経営力が必要。

◇SDC スタッフは、ボランティア的に活動するだけでは持続しないのではないか。

地域課題の掘り起こし必要

◇地域課題の掘り起こしが不足している。

自然と生まれる人のつながり大事

◇人と人とのつながりは作り出すものか。自然に生まれるつながりが大事ではないか。

②多摩区における SDC の今後の望ましいあり方

今後取り組んだ方が良くと思うこと

講演会の開催

◇区内の多くの（多摩区在住の）専門家による講演会の開催。

◇専門家に地域のちからをご紹介いただく。

◇地域団体と関係構築できれば、講師として様々な専門家を紹介いただける。

国際交流協会とのつながりづくり

◇町会や市国際交流協会とのつながりをつくり、外国人へのサポートを行う。

地域の団体等と一層の関係構築を進めるための取組→ここがキモ

定例ミーティングの開催

◇町内会、社会福祉協会、子ども会など地域の団体等との定例ミーティングを開催する。

◇オンラインより対面形式がよい。

◇今、困っていることを聞くことが必要。

町内会・老人会

◇多世代、様々な主体との交流対話の場などが必要。町内会を回って話を聞くことも必要。

◇地域の老人会とのつながりを持つ。町内会の活動へ協力していく。

公園

◇各地区の公園を活用したイベントを開催する。イベント収入を得ることもできる。

より多くの人、多世代の人が取組や運営に参加するためのアイデア

目につく宣伝

- ◇多方面へ多種類の情報配信を継続していく。
- ◇日常的に目につく場所（駅、バスなど）で宣伝する。
- ◇イベントで周知していく。

食をテーマに

- ◇多くの人々が共感できるテーマでの取組を行う。例えば「食」に関するフェアの開催や、「子ども食堂」の拡張など。
- ◇食をテーマとした取組を通じて、転入者の地域活動への参加の入口とする。

望ましい開設場所

もう1箇所の拠点を

- ◇もう1箇所の拠点を設けてより広域的に活動する。
- ◇場所は今の場所のほか、もう1箇所あるとよい。

望ましい運営組織のあり方

常勤確保

- ◇常勤の人材を確保する。

組織を2つに

- ◇株式会社と一般社団法人の2組織化。

輪番制

- ◇輪番制によるMC（まとめ役）の設置。

望ましい区役所の支援のあり方

ボランティアセンターと協力

- ◇区役所内のボランティア支援センターなどでSDCの活動を紹介する。

少しずつ支援を減らす

- ◇区の支援は少しずつ減らして独立経営にする。

細かな支援・財政支援

- ◇今のような細かな支援（会議開催案内etc）が必要。
- ◇引き続き財政支援や場所の提供を行う。

自主財源の確保に向けた取組のアイデア

企画料

- ◇イベント企画料をもらって収益につなげる。
- ◇イベント会社へ委託しているものを SDC へ委託し収益につなげる。
- ◇講演会を開催し講演収入を得る。

様々に工夫する

- ◇出版、会費、寄附、クラウドファンディング、スポンサー募集など。
- ◇企業インターンシップの有料化。

自立に向けたマイルストーンをつくる。

- ◇Goal として3年後から自立へのマイルストーンをつくる。(イメージは3年後)

考慮すべき社会や地域の情勢

防災を切り口とした地域との協力

- ◇地域毎の協力体制を構築する。

その他の意見やアイデアなど

- ◇各活動の経済価値を見える化する。



グループ2 記録

①参加者から見た多摩 SDC の良いと思う点、課題と思う点

良いと思う点

様々な人を巻き込んだ活動

- ◇多くの人を巻き込んだ活動となっており、地域活動に興味を持つ人を増やすことに役立っている。
- ◇人を集めるのが上手い！

若い世代が多い

- ◇若い世代が活動している。
- ◇若い世代の地域活動への参加がある。
- ◇若者の参加が増え、若者の要求を取り込んでいると思われる。

様々なイベントがある

- ◇夏祭り、食の祭典で多摩 SDC に協力いただいた。
- ◇古民家カフェも大変一生懸命やっている。

楽しく自主的に、多様な活動と支援ができている

- ◇一生懸命楽しくやっている。
- ◇自主的な参加組織だという点？
- ◇地域の人々が中心となった活動になっている。
- ◇多様な支援が行えている。
- ◇地域で積極的にイベントを開催、参加している。
- ◇地域内で活動している方と関わりながら活動している。
- ◇区役所 1 F に拠点（集える場）がある。

課題と思う点

自主財源の取組や事業の見直し

- ◇自主財源での運営を目指した取り組みが足りない。
- ◇事業ごとの収支分析はできているのか。見直しが必要である。
- ◇子育てや子どもへの支援はあるが、その他はまだ不十分である。

拠点づくり

- ◇駅近くに拠点を設けられないか。

参加世代の偏り

- ◇若い世代（学生）以外が関わりづらくなっている可能性がある。

◇高齢者や若者の間の世代の参加が少ない。

他団体との連携

◇NPO 組織（自主組織、事業体を含む）等との連携は今後どうしていくのか。

◇既存組織（町会、自治会）との関係が見えづらい。

◇他団体との関係が見えづらい。どう連携するか。

◇他団体を巻き込むのが好きな人がもっと集まると良い。

SDC の周知

◇まだまだ地域の方々に知られていないこともある。知ってもらう必要がある。

②多摩区における SDC の今後の望ましいあり方

今後取り組んだ方が良くと思うこと

◇SDC の存在の広報活動をする。

◇地域の「困りごと」を「事業」に結びつけるようなプラットフォームの役割を担う取組。

◇NPO 等市民活動団体支援に向けられるような SDC の在り方の検討。

◇参加の入口として「楽しい」、そこから楽しみながら責任が生まれることで、人材育成やノウハウを伝授していく。

◇ロコミの力を活用し、参加して良かったと思ってもらえる体験を提供する。

◇SDC として何をやるのか、改めて考えて、地域でやりたいことをやれる環境をつくっていく。

地域の団体等と一層の関係構築を進めるための取組

◇これまで関わっていない地域の方々とも連携しながら活動の幅を広げていく。

◇イベントについては、広報や自主財源の確保など、複数の意義があるので、イベントを通して地域の団体と関係を構築していく。

より多くの人、多世代の人が取組や運営に参加するためのアイデア

◇シニアの能力を引き出す。

◇多世代のメンバーがいることを活用する。

◇学生が中心に見えるが、一般の方はどのくらいいるのか、もっと巻き込みたい。

◇働く世代の方々など、より多くの地域の方々を巻き込みながら活動していく必要がある。

望ましい開設場所

◇登戸再開発に組み込んで、駅に近い「ふらっと立ち寄れる場」を設ける。

◇現行の場所にとらわれず、様々な既存コミュニティと連携した運営を考える。

望ましい運営組織のあり方

◇意見交換会のような場を設ける。

◇中間支援やまちのひろば支援など、開設して以来果たしていく必要のある機能にも目を向けて活動する。

◇NPO など、様々な団体との結びつきを構築する。

望ましい区役所の支援のあり方

◇場の提供や求められる情報の公開をしていく。

◇区からの助成金や委託事業について、目的と成果を明確にする。

◇行政は地域への入り方が縦である。行政が縦割の中、SDC にだけ横申しを求めるのは厳しいのではないか。

自主財源の確保に向けた取組のアイデア

◇企業や団体の協賛を取り付ける。

◇多摩 SDC として、自主財源で収支に見合う事業と、そうではない事業に分別し、収支に見合わなくても求められる機能について区による支援を検討する。

◇自主財源の確保は今後どう考えているか、まずビジョンを示すべきである。

◇他団体と連携することで費用をかけずに事業ができるのではないかと。

考慮すべき社会や地域の情勢

◇コロナ禍にどう活動するか、なかなか難しい。

その他の意見やアイデアなど

◇SDC はもっとささやかな地域活動の応援していく。



グループ3 記録

①参加者から見た多摩 SDC の良いと思う点、課題と思う点

良いと思う点

人材と時間

- ◇若い世代の参加はプラス要因。多種多様な若者、学生が人材として集まっている。
- ◇いろいろな学生が集まっている。(色々な大学、地方出身)
- ◇若い世代の時間と活気のある人材が豊富。
- ◇大学生の参加は良い。
- ◇町内会の担い手不足を助けてもらえそうである。期待している。

人材育成の場

- ◇柔軟な発想で企画力にあふれている。
- ◇民家園カフェは、閑散期にも学生に協力してもらえる。投げかけるとすぐに改善案を持ってきてくれる。利益を上げるにはどうしたら良いか考え、そこから成長している。
- ◇若者の人材育成の場となっている。
- ◇若者が成長してキラキラとした眼で就職に向かっている。
- ◇地域へ出て行き学ぶ経験となっている。

ニッチなところを担える柔軟性

- ◇まちのひろばの一団体としての活動はうまくできている。
- ◇官民中間のニッチな事業を行うのに最適な存在・形態である。
- ◇多摩 SDC のデザイン性の高いお弁当を、生田緑地のマルシェで販売していただくことで他店の刺激になった。

課題と思う点

財源をどうするか

- ◇今後の財源の確保はどうするか。
- ◇運営資金や自立の難しさがある。
- ◇必要経費の入手(受益者負担)、寄附、区役所からの地域課題対応予算、協働費などが考えられる。

広報をもっと強化する

- ◇区域内、広域での取り組みを強化する。
- ◇チラシ(情報)を市民館、ロビー、図書館等の棚に設置する。
- ◇区内への PR 不足があるため、認知度を上げていく必要がある。
- ◇SNS だけでなく、紙媒体でも SDC の広報をしてけると良い。

評価ってむずかしい

- ◇見えざる評価軸をもって評価すべき。単純な利益（収支）評価ではこの事業のメリットは見出せない。
- ◇若い人との交流がシニアにとってはうれしい。シニアをどれだけキラキラさせられたかという視点がリピーターを生む。

つなぐ（地域をつなぐ、部署間をつなぐ）

- ◇区役所内、他課内をつなげる。
- ◇中間支援を推進するために、多くの地域との信頼関係を築く必要がある。
- ◇これまで関わることのなかった団体をつなげる。

もっと多世代・既存の地域組織とつながろう！

- ◇多世代との運営面、人材確保に課題がある。
- ◇町内会や自治会など既存の地域組織との関わりを作っていく。

SDC 自体のビジョンや目的の明確化

- ◇回避すべきシナリオが見えない（先の計画がない）。
- ◇区民が分かる計画スケジュールがない。
- ◇回避すべきシナリオとそのための SDC の活動のつながりが見えると良い。

②多摩区における SDC の今後の望ましいあり方

今後取り組んだ方が良くと思うこと

- ◇広報活動を強化する。
- ◇事業の取捨選択の自由度をもつ。

地域の団体等と一層の関係構築を進めるための取組

- ◇町内会、自治会との関係を強化していくことが必要である。
- ◇自治会、町内会との連携が必要である。
- ◇SDC はこんなことができるということを町内会へ伝えていく。
- ◇有志の市民を発掘する。
- ◇自治会ホームページ制作、管理代行、ポータルサイトの設置などを行っていく。
- ◇SDC の取組の「見える化」が大事である。

より多くの人、多世代の人が取組や運営に参加するためのアイデア

- ◇イベントや活動のチラシを自治会から配布してもらおう。回覧板などにも載せてもらおう。
- ◇広報物を広域に配布する。

◇SDC の PR を町内会にやっていただく。

◇SDC の取組の「見える化」が大事である。

望ましい運営組織のあり方

◇計画書や方針があると継続する。

◇持続可能な仕組みを構築する。

◇OB・OG が継続的に関与できる環境をつくる。

◇持続可能という観点から有償ボランティアの検討も必要である。

望ましい区役所の支援のあり方

◇区役所側も「協働」を意識してほしい。

◇区として取り組むべき課題は、区で事業立て、予算立てをして、SDC と協働してやっていく整理も必要である。

◇行政が保険についてのカバー等サポートしてあげられると良い。

◇引き継いだ取り組みを連携していく。

自主財源の確保に向けた取組のアイデア

◇町会の HP の作成支援や IT 化を支援してあげる。(市からの補助金があるため、活用すべき)

◇託児所、延長保育、学童、食育イベントなどを実施する。

◇子ども食堂ブランドを活用する。

◇今の場所でもカフェ（コーヒー一杯くらいでも）ができると良い。

考慮すべき社会や地域の情勢

◇登戸地区の再開発がある。今動いているので優先して連携してみてはどうか。



グループ 4 記録

①参加者から見た多摩 SDC の良いと思う点、課題と思う点

良いと思う点

- ◇SDC 立ち上げ当初より学生ボランティアが増えたこと。
- ◇幅広いテーマについて具体的に取り組んでいる。
- ◇多種多様な要望の相談に対応できている。
- ◇相談対応してくれるスタッフが接しやすい。このことを HP でアピールしてはどうか。
- ◇SDC に若いメンバーがいて地域の活動と少し縁遠い子育て世代（30、40 代）との繋がりができてきている。
- ◇できることが広がりつつある。また、広げていく余地もある。

課題と思う点

- ◇子ども食堂の開催回数はもっと増やしたほうがよい（月 1 回を 2 回に）。子ども主体の場所をつくりたい。
- ◇子ども食堂で別の取り組み（例えば、学生が子どもに勉強を教えるなど）ができないか。
- ◇子どもの居場所として、子ども食堂のほか塾などの活動もできないか。空いている時間は場所を提供できる。
- ◇SDC の活動が周知できていない。周知方法を考えたほうが良い。
- ◇SDC とは何ができる団体なのか明確でない。
- ◇SDC として今後何ができるのか明確でない。
- ◇SDC への相談窓口が分かりづらい。
- ◇地域活動に関する様々な相談をできるということが、多摩区役所職員も含め、思ったよりも知られていない。
- ◇マルシェなどで子どもたちだけで企画したお店の出店ができないか。
- ◇高齢者が参加できる企画ができないか。
- ◇登戸・たまがわマルシェなどのイベントがもっとやりやすくなってほしい。イベント出店時の役所への手続き等、SDC が支援できないか、
- ◇町内会、自治会と連携した活動ができていない。
- ◇地域との関わりがまだまだ少ない。
- ◇SDC と地域との話し合いの場が必要ではないか。
- ◇「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の回避すべきシナリオのうち、自治力低下による災害時の対応や空き家の増加に対応できていないのではないかと。SDC が主体的に取り組むことは難しいかもしれないが、サポートしてもらうことはできないか。

◇SDC が町内会・自治会と連携・協力体制を構築して、陸の孤島と言われている南生田を何かできないか。高齢化が進み、空き家も増加している。

◇特に空き家は課題になっている。ハクビシンが出現したこともある。実態把握を行い、空き家を利用したりする取組（世田谷区の地域共生のいえ等）を考えてはどうか。

◇空き家、空きスペースで子ども食堂を開催する。どのように空き家、空きスペースにアプローチできるか（場所を必要とする人が多いのに、空き家や空きスペースが多い状況になっている）。

◇事務所は土日に営業していないため、平日働いている人は利用できない。

②多摩区における SDC の今後の望ましいあり方

今後取り組んだ方が良いと思うこと

◇町内会との関わりづくり。

◇取組課題について定期的に話し合える場が必要。

◇民生委員との関わりを深める。

◇ボランティア活動を地域に発信していく。

◇定期的に活動を報告することで、地域との関係性を築く。

◇地域の高齢者向けの活動や、困りごとに対して支援を行う。

◇引きこもり、独居の方への個別訪問などのアプローチを行う。

地域の団体等と一層の関係構築を進めるための取組

◇町内会・自治会と連携した活動をする。町内会・自治会と連携できる活動を知るために、話を伺う。

より多くの人、多世代の人が取組や運営に参加するためのアイデア

◇SDC の活動に参加することで、自分自身の暮らしが豊かになることをアピールする。例えば学生が地域活動に参加することで、様々な経験ができ、コミュニケーション力が身につく。

◇区内にあるコミュニティカフェ（約 30 ヶ所）が「まちのひろば」になっているか調査した上で、対策を検討・実施する。コミュニティカフェでの情報発信も必要ではないか。

◇小学生から地域に目を向けてもらう取組を行う。高校や大学に進学し、SDC の活動に参加してもらえるような仕組みづくりをする。

望ましい開設場所

- ◇未成年・学生が活動することを踏まえると、信用を得られやすい区役所に事務所がある方が良い。
- ◇現在の事務所は狭すぎる。麻生市民交流館やまゆりのような、2階以上のイベントもできる建物がよい。
- ◇複数の拠点を設けることも考えられるが、コストがかかる点で課題がある。

自主財源の確保に向けた取組のアイデア

- ◇フリース、デニム等の特定品の回収、リサイクル、加工による収入確保。
- ◇営利目的の人（起業したい人など）に、SDC の営業時間外に有料で場所を貸し出しを行う。
- ◇交通の利便性が悪い地域で、食品等の引き売り（移動スーパー等）などを行う。
- ◇広告を有料で発信し、運営資金に回す。

考慮すべき社会や地域の情勢

- ◇空き家への取り組みが必要。世田谷区の取り組み（地域共生のいえ）を調査し、具体化に検討する。

その他の意見やアイデアなど

- ◇SDC 事務所に掲示しているポスターを道路から見えやすくすることで、活動内容を分かりやすく周知する。
- ◇地域活動を拡充するため、地域通貨「たま」を活用する。地域でお金も循環する。
- ◇区職員に SDC が広まっていないので、周知が必要。



グループ5 記録

①参加者から見た多摩SDCの良いと思う点、課題と思う点

良いと思う点

若者が多い、SNSの活用

- ◇若い人（大学生）が多く参加している。
- ◇若い人が多いのは素晴らしい。
- ◇SNSを活用した情報発信はとても良い。

活動のつながり、イベント

- ◇様々な活動が有機的につながって機能している。
- ◇大きなイベント、例えばたまがわマルシェなどが多く開かれているのが良い。

課題と思う点

多様な世代の参加が必要

- ◇働く世代の参加が少ない。
- ◇人材育成の取組として、担い手の発掘も必要である。
- ◇もっと学校関係を取り組んでみてはどうか。（PTA、中学校区地域教育会議など）
- ◇地元の中学・高校に通う中高生とのつながりを作り、それを通して人材の確保が必要。
- ◇中学校・高校の先生方もオブザーバーとして参加してもらってはどうか。
- ◇子育て世代がスタッフとして関われるにはどうしたら良いか考える必要がある。

自主財源の確保

- ◇財政の具体策をもっと明確にすること。
- ◇独立財源は良いことだけではなく、何かに付度しなくてはならなくなるので、それで良いのか考えていく必要がある。
- ◇収入確保に向けた取組として、貸しスペースや交流スペースの貸し出しをしてみてもどうか。
- ◇コロナ禍だが「飲みニケーション」も必要。

周知・告知・広報の工夫が必要

- ◇周知がしっかりできているか、改めて見直すことも必要。
- ◇連絡網は自宅の固定電話だけの人もいたりして、連絡の取り方が古い。周知や広報が十分にできていない部分もあるのでは。

SDCの意義・目的を改めて見直し周知する

- ◇活動を通して、SDCが何を解決してくれるのか、活動の目的やゴールがよく分からない、見えない。もっと活動目的やゴールを周知しても良いと思う。

◇「SDC（ソーシャルデザインセンター）」とアルファベットやカタカナでは、お年寄りには何のことなのか分からないと思う。こういった活動をしている団体なのか、もっと周知すべき。

◇活動当初は行政が窓口であるが、市民が活動の主体になるのはいつになるのか。ビジョンを示す必要がある。

活動施設の拡大

◇活動拠点となる施設はもっと大きい所を考えるべき。

各団体の連携

◇親子で参加できる小さなイベントを開催することで顔が見えて、つながりができていく。

◇各地区、町会、自治会での活動はそれぞれ特性があり、独立してしまっている面がある。もっと横のつながりを構築して連携していくことが必要である。

②多摩区における SDC の今後の望ましいあり方

今後取り組んだ方が良いと思うこと

◇登戸・たまがわうんどうかいのようなスポーツに関する取組は継続できたらよい。

◇子ども食堂だけでなく、多世代食堂を開く。

◇子どもだけでなく、働く母親などが子どもを連れて行ける場所を作る。

地域の団体等と一層の関係構築を進めるための取組

◇コロナ禍であるが、「飲みニケーション」が必要である。

◇諸会議で顔を出すことで、会議出席者と仲間や顔見知りになる。

◇SDC で実際活動している方が、町連役員会等で具体的な活動内容を説明し協力を求める。

◇イベントを共同開催する。（商店街やこども文化センター等）

◇既にある組織を活用する。（組織間のネットワーク化を進めるなど）

◇地域の活動を盛り上げる取組をする。（魚心あれば水心）

◇地域で活動する団体の横のつながりができる情報交換の場を作る。例えば業種ごとなど。それぞれの団体を知ればもっと推進できる。

◇SDC から他団体にボランティアを派遣する。

より多くの人、多世代の人が取組や運営に参加するためのアイデア

◇連続講座などのイベントを開いて、参加者と顔見知りになり、SDC メンバーに誘う。

◇地元の農家さんの手伝いをして交流を深める。

◇市内で多摩区だけ交響楽団がない。人を集めるには必要である。

- ◇昔からの町会の祭りに SDC メンバーが参加する。
- ◇中・高・大学生でも地元消防団の活動を見学、体験ができる機会を作る。
- ◇地域に出ていき、町内会や自治会などの方々との関係性をつくっていく。
- ◇SDC を知ってもらうための活動を広げていく。

望ましい開設場所

- ◇会議室（貸しスペースに使用）やフリースペース（ワンデイカフェ開催）がある建物。
- ◇公共の場所を活用する。（学校や生田緑地など）
- ◇区画整理事業で SDC の拠点となる場所を確保すべきである。
- ◇実態が無いととっつきにくいので、活動の拠点となる足がかりとしての「箱モノ」は必要である。

望ましい運営組織のあり方

- ◇ハンデがある方の積極的な登用をする。

望ましい区役所の支援のあり方

- ◇行政が解決できること、担当していることの見える化をする。

自主財源の確保に向けた取組のアイデア

- ◇自主事業を開設する。（キッズスクール、手工芸教室、講演等）

考慮すべき社会や地域の情勢

- ◇多摩区は急坂の多い地区である。お年寄りの足となる交通手段を確保したい。

